

第 23 回西日本技術士研究・業績発表年次大会[20171117~18]

■第 23 回西日本技術士研究・業績発表年次大会 (松山) 地域の文化とまちづくり～技術士の役割～

日時:平成 29 年 11 月 17 日(金)～18 日(土)

場所:道後温泉周辺、坊ちゃん列車、湯築城跡、
酒蔵等、大和屋及びにぎたつ会館

参加者:テクニカルツアー 29 名、レセプション 56
名、年次大会 94 名

<第一日目 13:00～20:00>

・テクニカルツアー(道後温泉周辺、坊ちゃん列車、
湯築城跡、酒蔵等。大和屋本店 1F ロビー集合 12:
40～16:00)

テクニカルツアーは、道後温泉駅前に集合した
後、ターンテーブルによる坊ちゃん列車回転の様
子を見学し、道後温泉第四分湯場に向かった。こ
こからの見学場所は、翌日の基調講演者である、
坂の上の雲記念館の松本館長より説明がなされ
た。



道後温泉駅及び第四分湯場での見学の様子

からくり時計がある「放生園」～日本最古の湯
釜が祀られている「道後公園」を散策し、道後温
泉と縁のある、一遍上人や小林一茶らの話を伺っ
て、当時の様子に思いを馳せた。その後、旧遊郭
跡地がある上人坂を登って、宝巖寺(一遍上人の
生誕地)～円満寺へと足を運び、冠山分湯場から
道後温泉本館を見下ろしながら、松本館長の話に
耳を傾けた。



道後公園及び宝巖寺での見学の様子

「道後温泉本館は、来年改修が予定されており、
社会環境に配慮し、営業を継続しながらの改修工
事を前提としているので、どういった手順でどの
ような仮設工法を選定するのか、慎重な検討が必
要である」とのことであった。その後、本館横の”
道後ハイカラ通り”を抜けて、椿の湯(改修中)、
飛鳥の湯を見学して、にぎたつ庵にて酒造見学、
地ビール等の試飲を行い、ツアーを終えた。



来年度改修予定の道後温泉本館



にぎたつ庵での記念撮影

・レセプション1(大和屋本店 18:00～20:00)

交流会は、大和屋本店 2F 大和の間で開催され
た。古野四国本部長の挨拶で始まり、(公社)日本
技術士会の中川副会長の挨拶へと続き、四国本部
の須賀副本部長の乾杯で宴が始まった。会員同士
の懇親を深めながら、アトラクションとして、「松
山検番」による踊りや会員参加による“野球拳”
が披露され、会は大いに盛り上がった。宴もたけ
なわな頃、近畿本部の河野副本部長の中締めによ
り閉会した。



司会の吉村幹事

古野本部長の挨拶



中川副会長の挨拶

須賀副本部長の乾杯



宴会の様子



アトラクションの踊り

中野副本部長の中締め

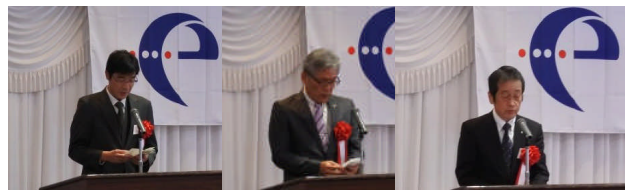
<第二日目 にぎたつ会館 9:00~16:40>

・式典(9:00~9:30)

式典は、にぎたつ会館 1F 芙蓉の間で開催された。四国本部の谷脇総務委員長が司会を務め、主催者側の古野四国本部長の挨拶で始まり、(公社)日本技術士会の中川副会長の式辞へと続いた。来賓として、国交省地方整備局の平井整備局長(代理 鳥羽松山河川国道事務所長)、愛媛県の中村知事(代理 樋口土木部長)、松山市の野志市長(代理 片山総務部長)より挨拶を頂いた。



式典会場の様子



鳥羽所長の挨拶

樋口部長の挨拶

片山部長の挨拶

・基調講演(9:45~11:00)

演題：「道後温泉の歴史と松山のまちづくり」

講師：坂の上の雲ミュージアム館長

松本啓治氏

松本館長の講演は、道後温泉にまつわる伝承から始まり、道後公園(湯築城跡)の歴史や縁のある人物などに触れ、道後温泉本館を改築し、道後温泉を松山市の有名な観光地にした人物として知られる“伊佐庭如矢”の話へと続き、現在の道後温泉本館周辺の景観や歩行者空間の整備状況などについての説明があった。



松本館長による基調講演

その後、明治松山に貢献した人々の名を挙げ、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の主人公である、正岡子規、秋山好古・真之兄弟の生涯や、子規の友人である、小説『坊っちゃん』で有名な夏目漱石の松山での逸話など、興味深い話が続いた。

最後に、観光都市・松山の強みを増幅させる“『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想”

の説明があり、松本館長の講演を終えた。



会場の様子

・論文発表(11:00~16:35)

論文発表は、二つの分科会に分かれて発表が行われた。第一分科会では、近畿本部が3編、四国本部・中国本部・九州本部が各2編で合計9編(一般5編、青年4編)、第二分科会では、各本部から各1編の合計4編の発表があった。

第一分科会での発表項目は、環境関連・地域振興・海外企業への指導・技術コンサルタントの役割・理科支援活動など多岐にわたっており、いろいろな視点からの技術士が果たすべき役割について発表があり、大変参考になった。



会場の様子

発表者の方々(一般)



発表者の方々(一般)



発表者の方々(青年)



発表者の方々(青年)



富士事業委員長による総括

第二分科会は、「女性がつなぐ技術と社会」というサブテーマが付けられた、女性技術士による発表会であった。四国本部では初めての試みであったが、現在それぞれの立場(行政、女性管理職、建設コンサルタント)で活躍されている女性技術者として、女性の視点からの技術士が果たすべき役割について発表があり、会場は熱気に溢れていた。



会場の様子



発表者の方々(女性)



発表者の方々(女性)



活発な質疑応答

論文発表の後は、四国本部の花岡氏が全体ファシリテータを務め、一般・青年技術士も参加してのグループディスカッションを行った。

参加者の気持ちを“ほぐす”ために、屋外に出て“アイスブレイク”手法による班分けを行い、その後、4班に分かれて「発表者4名の発表内容からキーワードを1つずつ+共通の2テーマ」について討論を行い、各グループでの意見集約～発表の後、池谷青年技術士交流委員長の統括によって会を閉じた。



花岡 全体ファシリテータ

グループディスカッションの内容

名 称	第 23 回西日本技術士研究・業績発表年次大会 第二分科会グループディスカッション
開催日時	平成 29 年 11 月 18 日（土）14:15~16:00
参加者数	20 名（5 人×4 グループ） 全体ファシリテータ 1 名 準備スタッフ 4 名
意見交換のテーマ	発表者 4 名の発表内容からキーワードを 1 つずつ+共通テーマの 2 テーマについて意見交換を行う（以下プログラム参照）
プログラム	14:15~14:30 アイスブレイク(グループ分け) 全体ファシリテータ：花岡史恵 14:30~15:45 グループディスカッション テーマ 1：科学リテラシーの育成について（Aグループ） テーマ 2：男女の意識改革について（Bグループ） テーマ 3：環境を軸としたまちづくりについて（Cグループ） テーマ 4：女性技術者のメリットについて（Dグループ） テーマ 5：女性技術者に望ましい技術者像とは（予備） テーマ 6：女性技術者の育成に必要な職場環境とは（全グループ共通テーマ） 15:45~16:00 グループ発表（意見の共有）



アイスブレイクの様子



グループ発表

池谷委員長による総括

分科会終了後、(公社)日本技術士会四国本部の須賀副本部長より、大会講評の取りまとめが行われた。

その後、次回大会開催地となる九州本部の佐竹本部長による挨拶～熊本県の兼子支部長による次回大会テーマの概説があり、四国本部の増田大会実行委員長による閉会の挨拶で会が締めくくられた。



須賀副本部長による大会講評



佐竹九州本部長による挨拶 兼子熊本支部長による挨拶



増田大会委員長による閉会の挨拶

・大会を終えて

今回の西日本大会は、来るべき『第 46 回技術士全国大会（四国・徳島）』を見据えて、“青年技術士”および“女性技術士”を中心とした分科会を設定してみたが、グループディスカッション方式を取り入れたことで、多種多様な技術部門、年齢層が参加でき、活発な意見交換～意見共有を行えた点など、得る物が多い有意義な大会となり、全国大会へ向けて良いスタートが切れたのではないかと思った。

菊池 昭宏（きくち あきひろ）

技術士（建設部門）

四国本部 広報委員長

(株)和コンサルタント

e-mail:kikuchi@kanou-co.com

